

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23104

研究課題名（和文）鎌倉幕府法研究の再始動 書誌学的方法による基礎研究

研究課題名（英文）The Study of the Laws of the Kamakura Shogunate: Basic Research Using Bibliometric Methods

研究代表者

木下 竜馬（KINOSHITA, Ryoma）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：80846585

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：御成敗式目や追加法などの鎌倉幕府法研究の基礎的研究は、1955年に刊行された佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集 第一巻 鎌倉幕府法』（岩波書店）でピークを迎えるが、その後この史料集に依拠して研究が進められたため、諸写本に立ち返った研究は停滞したままであった。本研究では、目録類の整備やデジタルアーカイブ化の進展を踏まえ、いま一度鎌倉幕府法の諸本に当たりなおし、文献学的・書誌学的な検討を通じて、幕府法研究を再起動することを目指した。研究資金によって全国各地の図書館・文庫などを探訪し、従来の研究などで未使用であった写本を見だし、研究を深化させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北条泰時が制定させたことで有名な御成敗式目の原本は残っておらず、さまざまな写本を組み合わせることで原態を復元する必要がある。また、御成敗式目以後の幕府法（追加法）を集めた法令集も、写本ごとの出入りが非常に多く、基礎的な検討が不足していた。また御成敗式目の注釈書は難解な記述が多く、本文の読解が進んでいなかった。本研究では全国各地の写本を調査し、従来知られていなかった鎌倉幕府法を発掘したり、写本間の系統を考える素材となる記述を発見することができた。

研究成果の概要（英文）：Basic research on Kamakura shogunate laws, such as the Goseibai-Shikimoku and additional laws, peaked in 1955 with the publication of "Historiography of Medieval Laws, Volume 1: Kamakura Shogunate Laws" (Iwanami Shoten), edited by Shinichi Sato and Yoshisuke Ikeuchi. In light of the development of catalogs and digital archives, this study aimed to revisit the Kamakura Shogunate Laws and restart the study of Shogunate Laws through a bibliographic and bibliographic examination. With the research funds, we were able to visit libraries across Japan and find manuscripts that had not been used in previous studies, thereby deepening our research.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本中世史 日本法制史 鎌倉幕府 書誌学 御成敗式目

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

御成敗式目、追加法、式目注釈などの鎌倉幕府法史料は、原本は現存せず、何重もの書写を経た写本（ごく一部は版本）のかたちで、さまざまに伝来している。これらを収集のうえ校訂し、研究用のテキストを作り上げたのが、1955年に刊行された佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集 第一巻 鎌倉幕府法』（岩波書店）である。以後、この史料集にもとづき研究が飛躍的に進んだ。一方で、弊害も生まれていた。

『中世法制史料集』はできるだけ原態を復元するという方針のもと、御成敗式目本文に付属しているさまざまな要素を削除したテキストを提供していた。また、追加法はもともとの写本から一ヶ条ずつ切り出され、年代順に配列された。そのため、元の写本の形態は利用者からはほとんどわからない状態になってしまい、元史料への関心が低下することとなった。この『中世法制史料集』があまりに至便であったため、依拠している諸写本に立ち返った研究が僅少となり、基礎的な研究が停滞する結果を招いたのである。

## 2. 研究の目的

鎌倉幕府法の基礎的研究の停滞を打破するため、あらためて諸写本に当たり直し、書誌学・文献学的な再検討を行う。これにより、『中世法制史料集』が用いた写本から新たな知見を得たり、『中世法制史料集』が用いることができなかった学界未知の写本を発見することを目的とする。

## 3. 研究の方法

日本各地の図書館や博物館、文庫などを再訪し、写本の原本を調査する。原本を調査する理由は、内容のみならず、書物としての装訂や寸法なども、写本としての性格を明らかにするうえで重要な情報だからである。

『中世法制史料集』が刊行された70年前とは違い、目録類の整備は各段に進んでおり、国文学研究資料館や国立国会図書館などのデータベース類で電子目録をまとめて検索することもできるようになった。またデジタルアーカイブ化の進展で史料画像が公開されている場合もある。以上のような電子的な環境の向上は、史料調査に大いに活用できる。

集めた写本をもとに、グループわけや系統を検討する。また、難解な式目注釈も諸分野の研究者とともに検討する。

## 4. 研究成果

デジタルアーカイブやデータベース類、あるいは東京大学史料編纂所や国立国会図書館に架蔵される紙の目録類を活用し、鎌倉幕府法史料の所在把握に尽力した。これによって、『中世法制史料集』で用いられていない写本が多数存在することが明確になった。また、『中世法制史料集』で使用されていた写本のデジタル画像が近年ウェブ公開されている場合もあり、あらためて写本の全容が把握できたケースもあった。

研究費にもとづいて各地に出張し、『中世法制史料集』が用いていなかった鎌倉幕府法の写本を多数見出すことができた。具体的には東京大学法学部法制史資料室、京都国立博物館、公益財団法人東洋文庫、京都大学附属図書館、鶴見大学図書館などである。そのなかには、従来知られていなかった鎌倉幕府法を含む写本もあり、鎌倉幕府の法制度を研究するうえで大きな発見となった。

筆者が見出した丹波篠山市の青山歴史村が所蔵する青山文庫本貞永式目追加は、従来まったく知られていなかった写本であるが、30ヶ条弱の新出法令を含んでいた。この写本には、鎌倉中期の全国の守護のリストが含まれており、守護の任免状況を一望できる初の史料として、守護研究史上大きな発見となった。筆者は『古文書研究』第88号でこの写本の概要を報告し、現在『鎌倉遺文研究』誌上で全文翻刻を掲載中である。

御成敗式目の一部には追加法と一体となって書写されてきた是円抄系追加集という系統の写本がある。筆者はこの系統の写本を網羅的に収集し、鎌倉幕府の内部で保持されていた式目の写本の末尾に追加法が書き加えられていたものと推測した。こうして、鎌倉時代の法の維持管理の様相の一端が、写本研究から浮かび上がってきた。この見通しは令和元年度国史学会大会 第2部会(中世史)で「御成敗式目と「式目追加」雑考 原式目論再検討のために」(2019年6月16日)と題して口頭報告していたが、本研究による諸本調査などの成果を盛り込み論文として成稿中である。

極めて難解かつ荒唐無稽な内容であまり検討が進んでいなかった式目注釈の検討を行う研究会を立ち上げ、国文学、法制史、国語学などの諸分野の研究者とともに、最古の式目注釈「関東御式目」を輪読している。この会の成果をもとに、Antitled 友の会第1回研究大会(2022年9月9日)ではパネル報告「注釈者の奇妙な奮闘—中世武家官僚の学知と「御成敗式目」」を企画し、「御成敗式目注釈の世界」と題して報告した。この報告では、古典に式目を結び付けることで、式目自体を古典化しようとする注釈者の戦略を指摘した。

御成敗式目など鎌倉幕府法・裁判についての研究史も検討し、論文「鎌倉幕府の法と裁判への

まなざし』(秋山哲雄・田中大喜・野口華世編『増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう』勉誠出版、2021年3月)として刊行した。本論文では、近代以降に鎌倉幕府法を称揚するまなざしが形成されたことを史学史的考察も踏まえ解明し、みずからの研究を位置づけた。また、一般向けの新書ではあるが、『鎌倉幕府と室町幕府』(山田徹、谷口雄太、川口成人と共著。光文社、2022年3月)においても鎌倉幕府の研究史をあらたな視点で位置づけた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 木下 竜馬	4. 巻 88
2. 論文標題 新出鎌倉幕府法令集についての一考察：青山文庫本貞永式目追加	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 63-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下竜馬	4. 巻 49
2. 論文標題 翻刻 青山文庫本貞永式目追加(その1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 46-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 木下竜馬
2. 発表標題 御成敗式目注釈の世界
3. 学会等名 Antitled友の会第1回研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 山田徹、谷口雄太、木下竜馬、川口成人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 光文社	5. 総ページ数 256
3. 書名 鎌倉幕府と室町幕府	

1. 著者名 秋山哲雄・田中大喜・野口華世編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 579
3. 書名 増補改訂新版 日本中世史入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------